

凡例

- (1) 国号・言語名称は、原則として著者の表記にしたがう。ただし「北韓(북한)」は原則として「北朝鮮」と訳す。
- (2) 注(翻訳の場合は原注) 1, 2…は頁内の脚注とする。訳注は、短いものは文中に〔 〕で括って挿入し、長いものは*1*2…の番号をふって頁内の脚注とする。
- (3) 書誌情報は各論文の末尾にまとめ、本文中では金壽卿[1947]あるいは[金壽卿 1947: 20]のように、著者名・発行年・頁番号によって表示する(「はじめに」を除く)。ただし、この形式による表記が難しい資料の場合は、脚注等で書誌情報を提示する。
- (4) 本文中では、論文や単行本のタイトルであっても、原則として日本語訳し、必要に応じて原語を表記する。漢字の人名・地名等の固有名詞で、日本語の読みとは異なる発音をする場合は、当該論文の初出でカタカナのルビをふる。
- (5) 日本語は原則として新漢字(現代の通用字体)、現代かなづかいで表記する。ただし、引用の場合のかなづかいは原文のままとする。また、「金壽卿」は全て「金壽卿」に統一するが、その他の人名等を表記する際に旧漢字を用いるかどうかは、各著者(翻訳者)の判断に任せた。